

平成28年度決算の概要

高知医療センター

(注) 計数を億円、百万円などの単位で処理している関係で不突合の場合がある

～ 収益的収支(3条収支)の状況 ～

【収益的収入】

款 項 目 節	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
1 高知医療センター事業収益	22,132,970	22,679,851	546,881
1 医業収益	18,039,317	18,202,598	163,281
1 入院収益	14,230,183	13,976,153	▲ 254,030
診療単価	76,352円	80,538円	4,186円
1日当たり患者数	509人	475人	▲ 34人
2 外来収益	3,142,920	3,497,923	355,003
診療単価	15,420円	17,091円	1,671円
1日当たり患者数	839人	842人	3人
3 その他医業収益	666,214	728,522	62,308
2 医業外収益	4,012,763	4,387,184	374,421
1 受取利息配当金	17,108	17,916	808
2 補助金	315,345	360,187	44,842
3 構成団体負担金	2,364,161	2,483,179	119,018
4 長期前受金戻入	951,602	1,299,508	347,906
5 その他医業外収益	364,547	226,394	▲ 138,153
3 特別利益	80,890	90,069	9,179

【総計】

	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
純 損 益	▲ 58,686	495,580	554,266
経 常 収 支	72,652	523,807	451,155
資 金 収 支	344,978	▲ 415,478	▲ 760,456

入院収益減少の主要因

救急・手術部門等の対重症患者への機能強化を目的として、一般入院病床(40床)を休床とし、入院患者数が減少したため

外来収益増加の主要因

高額薬品を使用する外来患者により、診療単価が増加したため
(代表例: 抗がん剤オプジーボ)

【収益的支出】

款 項 目 節	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
1 高知医療センター事業費用	22,191,656	22,184,271	▲ 7,385
1 医業費用	20,550,013	20,548,308	▲ 1,705
1 給与費	9,482,150	9,454,814	▲ 27,336
うち 退職給与引当金	500,383	369,677	▲ 130,706
うち 賞与等引当金	470,096	504,483	34,387
その他引当金以外	8,511,671	8,580,654	68,983
対医業収益比率	52.6%	51.9%	▲ 0.7%
2 材料費	5,556,349	5,491,517	▲ 64,832
対医業収益比率	30.8%	30.2%	▲ 0.6%
薬品費	3,033,452	3,067,859	34,407
対医業収益比率	16.8%	16.9%	0.1%
診療材料費	2,522,897	2,423,658	▲ 99,239
対医業収益比率	14.0%	13.3%	▲ 0.7%
3 経費	3,390,540	3,436,128	45,588
対医業収益比率	18.8%	18.9%	0.1%
4 減価償却費	2,033,491	2,091,385	57,894
5 資産減耗費	28,085	11,702	▲ 16,383
6 研究研修費	59,398	62,762	3,364
2 医業外費用	1,429,415	1,517,667	88,252
1 支払利息及企業債取扱諸費	486,914	459,825	▲ 27,089
2 長期前払消費税償却	72,423	73,868	1,445
3 議会費	1,311	1,314	3
4 監査委員費	113	112	▲ 1
5 企業団管理費	6,403	3,401	▲ 3,002
6 雑損失	862,251	979,147	116,896
うち 控除対象外消費税額	791,149	866,076	74,927
3 特別損失	212,228	118,296	▲ 93,932
4 予備費			

薬品費率増加の主要因

薬価改定及び価格交渉による価格の抑制が図られたものの、当院では高額薬品や新薬といった値引率の悪い薬品の使用数量が増加しているため。

代表例: 抗がん剤オプジーボ使用数量

100mg 平成27年度: 16本 → 平成28年度: 261本

20mg 平成27年度: 27本 → 平成28年度: 396本

年間総額 173,976千円増

診療材料費率減少の主要因

価格交渉の強化、ベンチマークシステムの活用及び同等品への切替等の取組みを行ったため

例① SpO2センサー

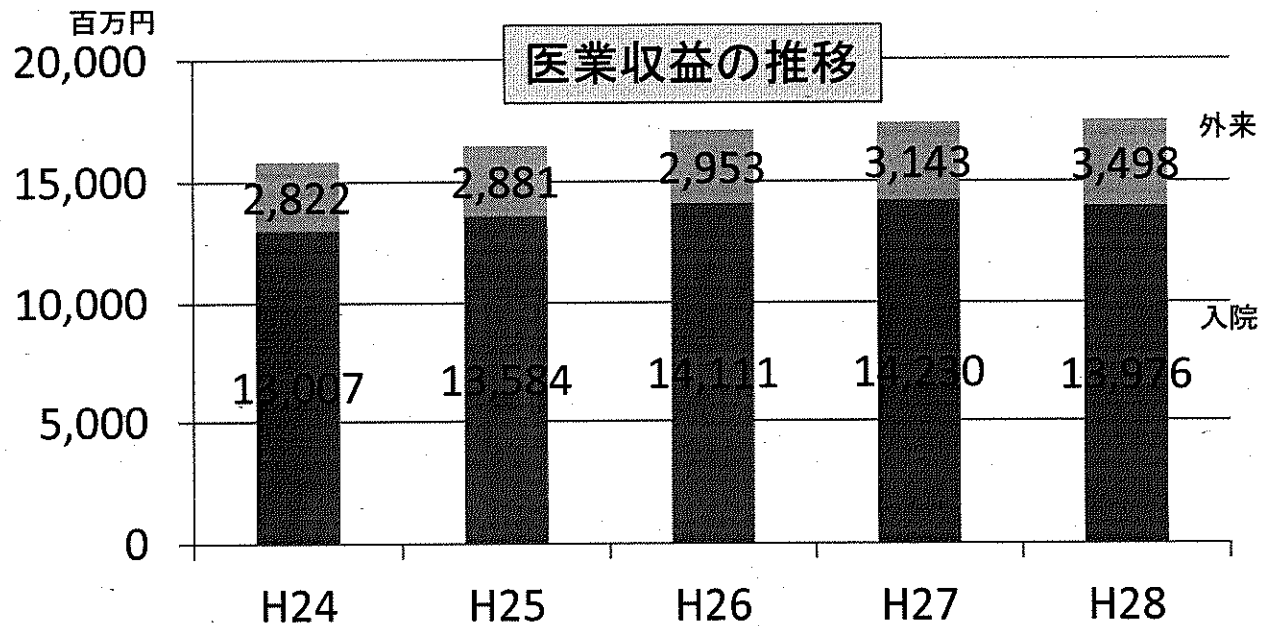
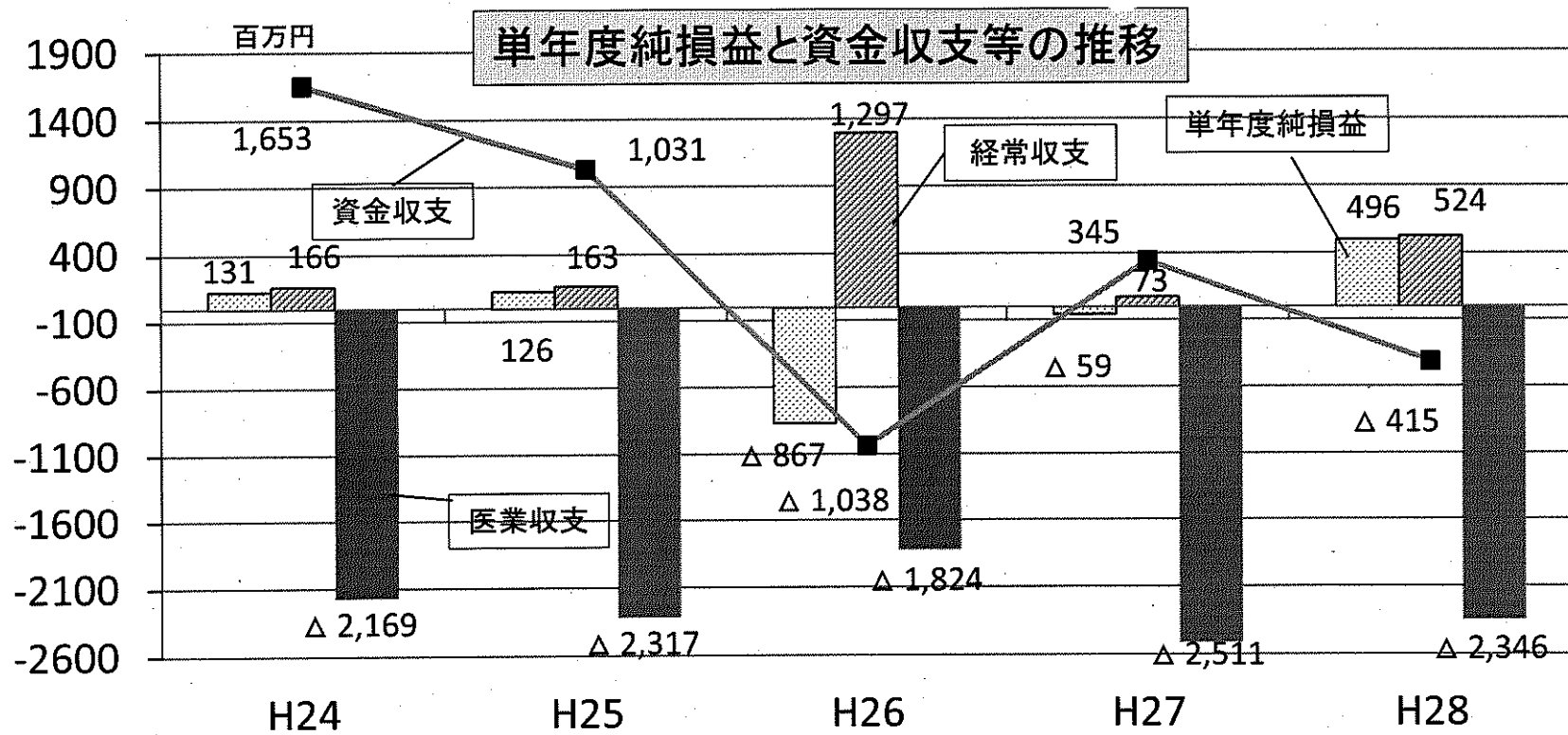
価格交渉により費用を削減、ディスポ・リユース品の使い分けによる使用数量の削減

削減効果: 対27年度比15,788千円

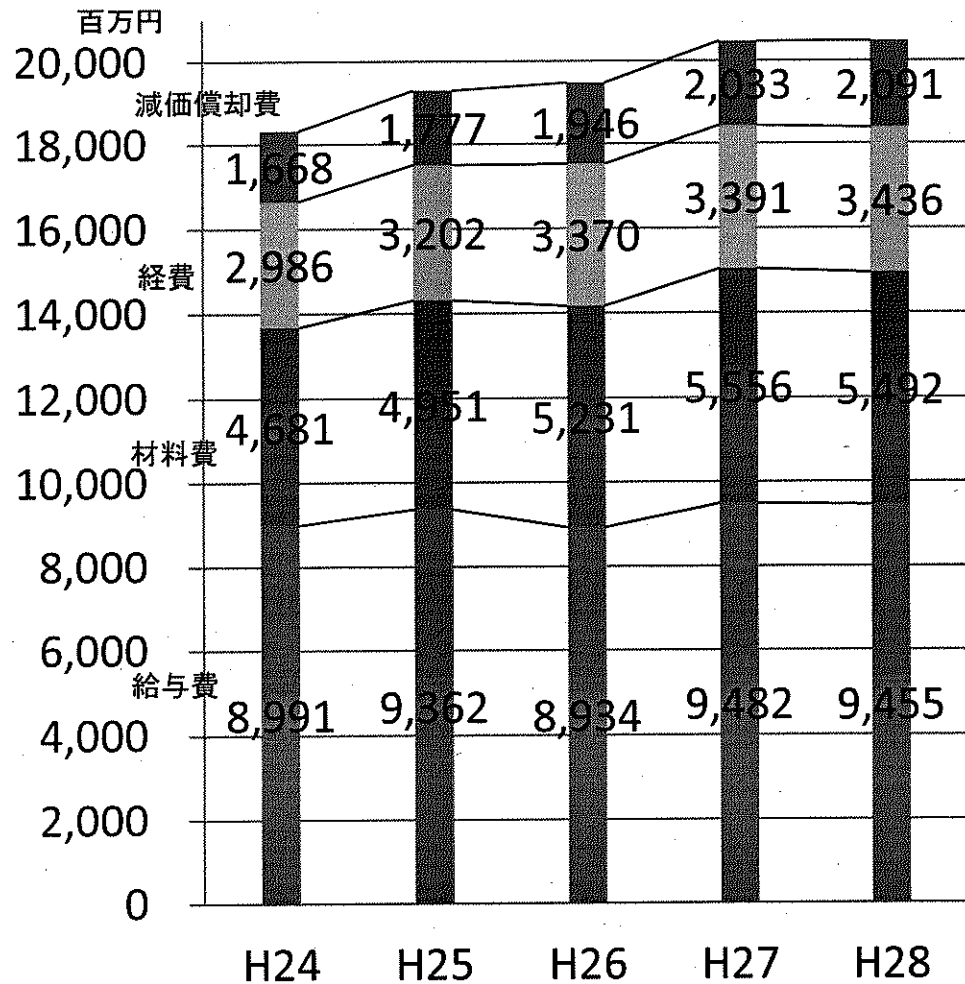
例② 冠動脈ステント

価格交渉により費用を削減

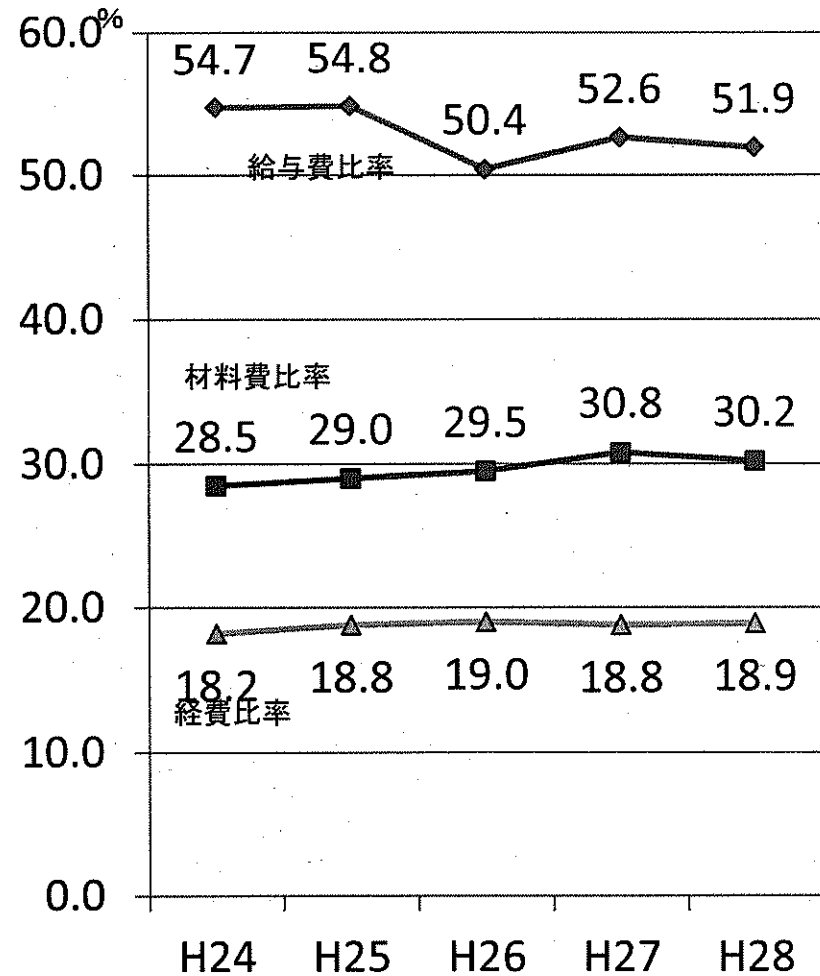
削減効果: 対27年度比17,018千円削減



主な医業費用の推移

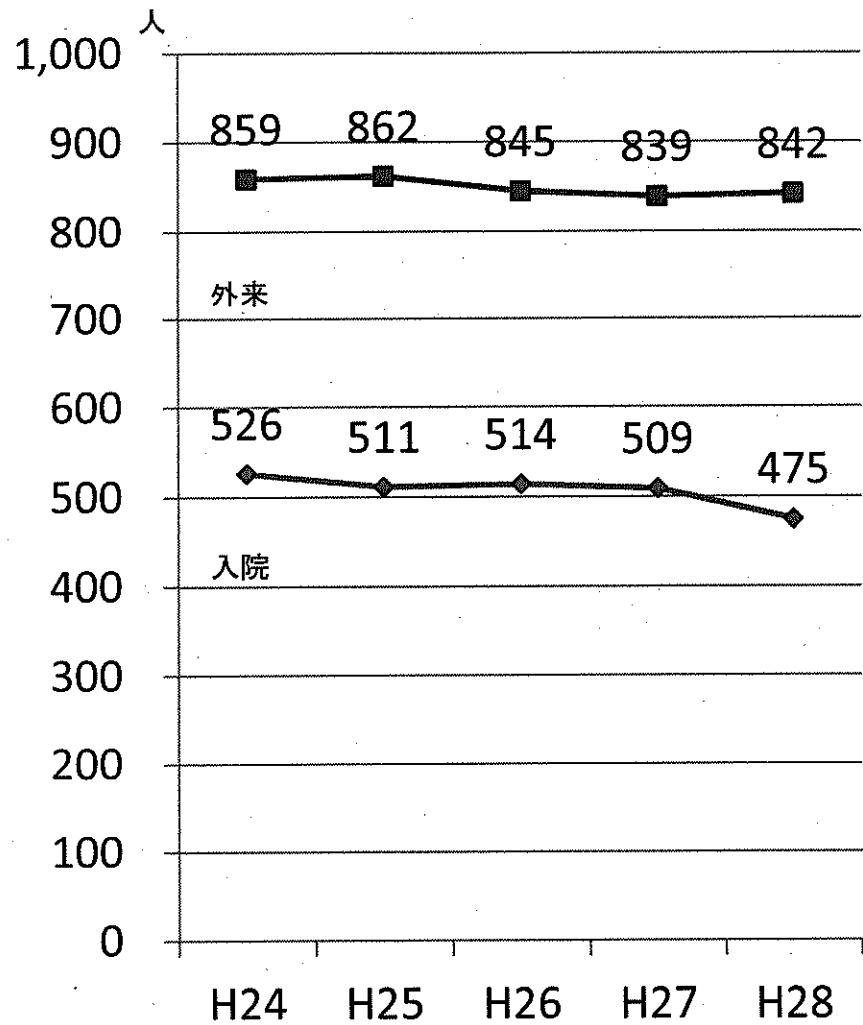


医業収益に占める割合の推移

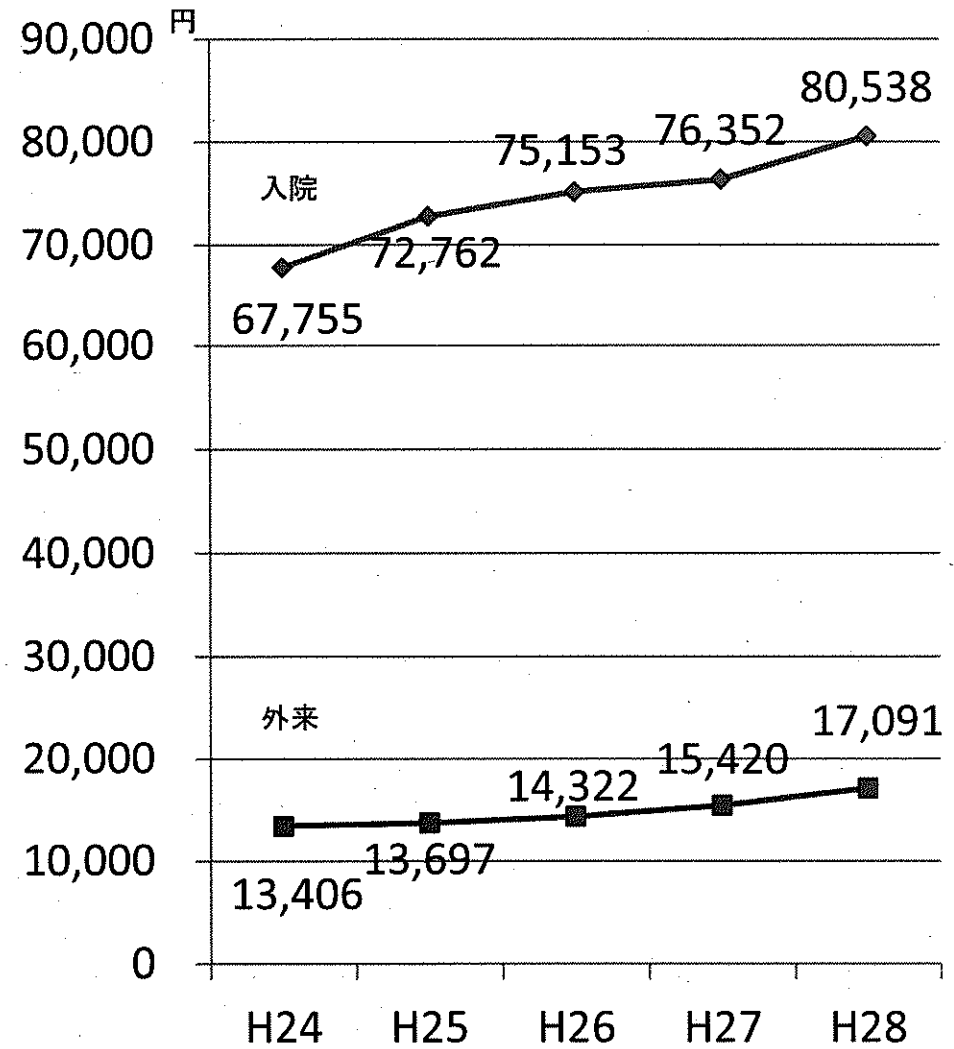


5年間で主な医業費用は1.12倍の21億円増
 給与費は1.05倍の5億円増、材料費は1.2倍の8億円増
 経費は1.2倍の5億円増

患者数の推移



診療単価の推移



～ 資本的収支(4条収支)の状況 ～

【資本的収入】

款 項 目 節	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
1 資本的収入	2,936,761	3,353,881	417,120
1 企業債	1,497,000	1,752,000	255,000
2 負担金	1,430,514	1,597,669	167,155
3 固定資産売却代金	3,181		▲ 3,181
4 補助金	162	4,212	4,050
5 寄附金	5,904		▲ 5,904

【資本的支出】

款 項 目 節	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
1 資本的支出	3,811,717	5,317,381	1,505,664
1 建設改良費	1,427,934	2,488,680	1,060,746
1 医療器械整備事業費	784,348	371,110	▲ 413,238
2 資産購入費	244,394	193,312	▲ 51,082
3 施設整備費	399,192	1,924,258	1,525,066
2 企業債等元金償還金	2,307,583	2,752,501	444,918
3 構成団体長期借入金償還金	76,200	76,200	0

※H27決算：資本的収入額が資本的支出額に不足する額874,956千円は、消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補てん

※H28決算：資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,963,500千円は、消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補てん

1建設改良費の主な内訳

医療機器整備費 371,110千円

生体情報モニタ更新、汎用人工呼吸器更新 等

資産購入費 193,312千円

がんサポートセンター電子カルテ、医療機器位置情報システム 等

施設整備費 1,924,258千円

がんサポートセンター建設 等

※がんサポートセンターに関する大型医療機器(放射線治療装置、PET-CT等)
1,369,248千円は平成29年度へ繰越

～ 資金収支の状況 ～

【資金収支状況】

資 金 収 支 状 況	H27決算①	H28決算②	28決算-27決算 ②-①
1. 前年度末内部留保資金	4,814,649	5,159,627	344,978
2. 当年度純損益(3条) 収益的収入-収益的支出	▲ 58,686	495,580	554,266
3. 現金を伴わない収支	1,278,620	1,052,442	▲ 226,178
4. 当年度資本的収支充当額 資本的収入-資本的支出	▲ 874,956	▲ 1,963,500	▲ 1,088,544
5. 当年度資金収支(2・3・4の計)	344,978	▲ 415,478	▲ 760,456
6. 当年度末内部留保資金(1+5)	5,159,627	4,744,149	▲ 415,478

3現金を伴わない収支の内訳

・長期前受金戻入 ▲1,299,508千円

・減価償却費 2,091,385千円

・4条控除対象外消費税 181,186千円

・その他雑収益 ▲312千円

・固定資産除却費 2,753千円

・長期前払消費税償却 73,868千円

・消費税資本的収支調整額 3,070千円